

各位

三井住友信託銀行株式会社

使用済みプラスチックの再資源化事業に取り組む
「株式会社アールプラスジャパン」への資本参加について

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、このたび、持続可能な社会の実現に向けて、使用済みプラスチックの再資源化を通じてプラスチック課題の解決に貢献すべく、株式会社アールプラスジャパン(代表取締役:横井 恒彦、以下「RPJ」)に、資本参加いたします。

当社を中核子会社とする三井住友トラスト・グループ(以下「当グループ」)は、カーボンニュートラル宣言を公表し、その中で投融資ポートフォリオのGHG排出量について2050年までにネットゼロを目指す方針を掲げております。また、当社は脱炭素や各種インフラ等の領域へ2030年度までに累計5,000億円のエクイティ投資を行うとともに、投資家の資金も合わせて2.5兆円規模としていく計画を有しています。

RPJは、2020年6月に事業開始した共同出資会社であり、環境負荷の少ない効率的な使用済みプラスチックの再資源化技術の研究開発を進めております。当該技術の社会実装を支援することで当グループ取引先の脱炭素化推進に繋がるものと想定し、RPJへの資本参画を決定しました。

当グループは、「信託の力で、新たな価値を創出し、お客さまや社会の豊かな未来を花開かせる」をパーパス(存在意義)と定義しております。本共同出資事業への参画により使用済みプラスチックの再資源化を推進し、引き続きバリューチェーンの一員として持続可能な社会の実現に向けて貢献してまいります。

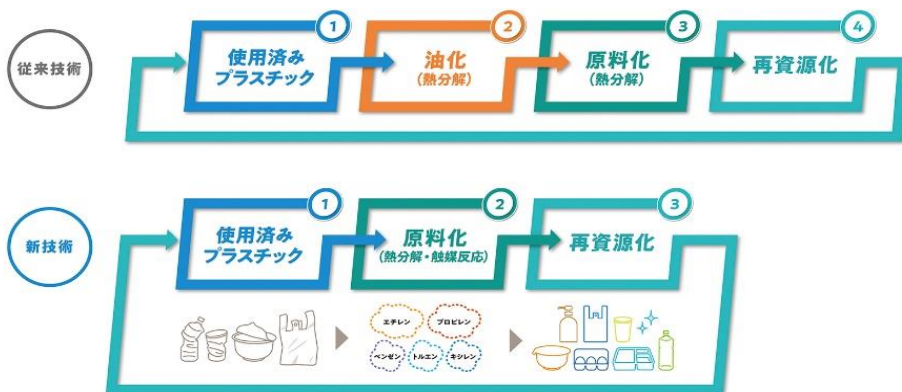
■ 共同出資会社の概要

会社名	株式会社アールプラスジャパン
事業開始	2020年6月5日
本社所在地	東京都港区台場2-3-3
代表取締役社長	横井恒彦
事業内容	使用済みプラスチックの再資源化技術の開発・実用化推進

■ 共同出資事業における取り組み

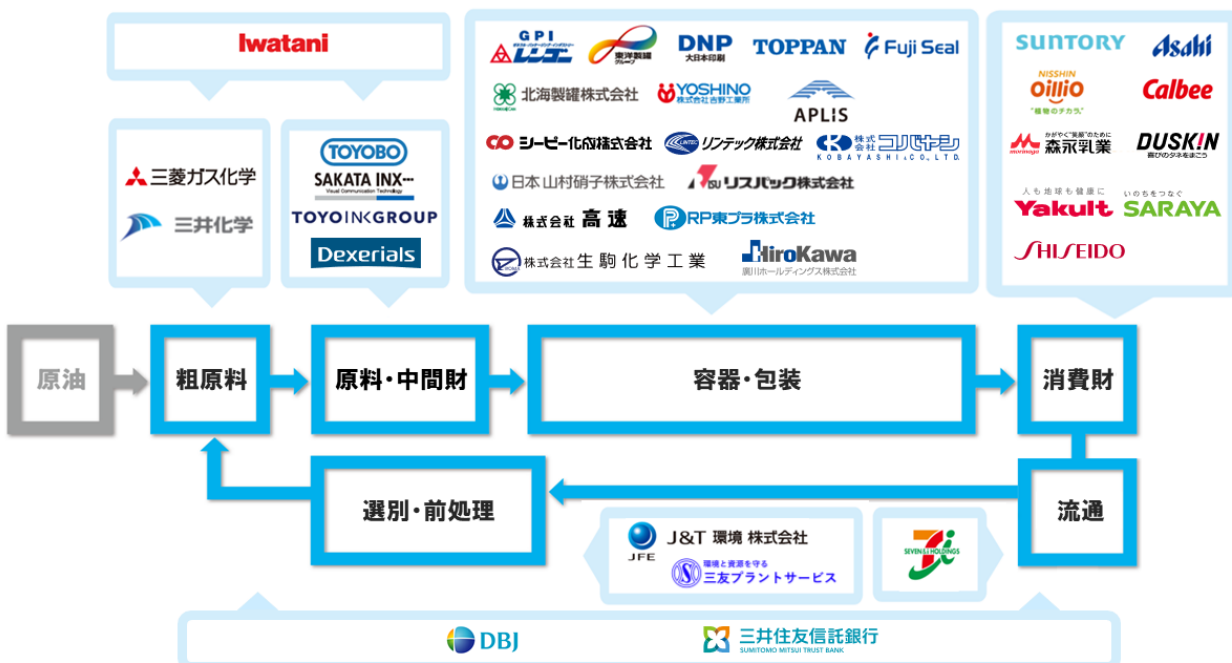
RPJは、米国のバイオ化学ベンチャー企業であるアネロテック社(Anellotech Inc.※1)とともに、環境負荷の少ない効率的な使用済みプラスチックの再資源化技術開発(※2)を進めます。世界で共通となっているプラスチック課題解決に貢献すべく、回収プラスチックの選別処理、モノマー製造、ポリマー製造、包装容器製造、商社、飲料・食品メーカーなど業界を超えた連携により、2027年の実用化を目指していきます。

- ※1 2008年創業。米国ニューヨーク州パールリバーに本社・研究開発機能をもつバイオ化学ベンチャー企業。非食用の植物由来原料から石油精製品と同一性能を持つベンゼン・トルエン・キシレンを生成する技術を保有しています。
- ※2 ペットボトル以外のプラスチックは、現在国内では多くが燃焼されていると言われています。今回の技術は、ペットボトルを含むその他一般のプラスチックを、直接原料(ベンゼン・トルエン・キシレン・エチレン・プロピレンなど)に戻すケミカルリサイクル(※3)の技術です。従来の油化工程を経由するケミカルリサイクルよりも少ない工程で処理でき、CO2 排出量やエネルギー必要量の抑制につながるため、この技術が確立できれば、より多くの使用済みプラスチックを効率的に再生利用できると期待されています。
- ※3 使用済みの資源をそのままではなく、化学反応により組成変換した後にリサイクルすること。



■ 参画企業一覧

2022年2月時点



以上